

第1回「清瀬」―結核関係者の聖地―

結核予防会顧問 島尾 忠男

池袋から西武池袋線で30分、清瀬駅で降りて南口から2番のバスに乗り、三つ目の停留所「複十字病院前」で降りると、左側に結核予防会複十字病院のレンガ色、そして結核研究所の白い建物が目に入る。右側に看護協会の研修所、その奥に国立看護大学、そしてその東側に清瀬中央公園があり、その中に「ここに清瀬病院ありき」という石碑がある。昭和6年に当時の清瀬村に開設された最初の結核療養所である東京府立清瀬病院であった場所を記念しての碑である。

当時結核は人に嫌われた差別の対象となる疾患であり、その患者を集めて治療する施設ができるということで、地元の住民からは強い反対運動が起こり、大変な労苦の末にやっと開設にこぎつけたと承っている。当時の清瀬村は無医村であり、清瀬病院に勤務する医師が村民に病人が出たときには往診に行くからといって村民の理解を求めたという話も承っている。一度病院が開設されると、その傍はほかのことには利用しにくいので、次に結核療養所を作りたいときには、隣接地が候補となり、慈生会のベトレヘムの園が昭和10年に作られ、昭和14年には救世軍の清心療養園、傷痍軍人東京療養所、上官教会の清瀬療園が相次いで建設された。翌昭和15年には信愛病院が開設された。昭和14年に設立された結核予防会も結核研究所を清瀬に作ることであり、附属療養所の建設が始められた。昭和18年には日本鋼管の清瀬浴風院と、日本鋼管・沖電気の共同による清瀬保養園が開設され、終戦までに清瀬には8つの結核療養所が作られていた。いずれも当時の武蔵野電鉄、現在の西武池袋線の南側の地域であり、清瀬村の住民のほとんどの方が住んでおられた線路の北側の地域とはかなりはっきり分かれていた。

終戦後の荒廃した環境の中で、結核は強く蔓延し続け、入院を待つ結核患者も多かったため、昭和22年には東京都職員清瀬療養所、結核研究所附属療養所が開設され、翌昭和23年には都立清瀬小児療養所が開設され、さらに織本病院と生光会清瀬療養所が加わり、昭和30年代初期の最盛期には、西武線南側の地域に13の結核療養所が集中し、5千人を超える結核患者が療養していた。全国各地でも、結核療養所がいくつか集まっている地域はあるが、清瀬ほど集中的に結核療養所がある地域は存在しない。ここで、多くの結核患者が治癒を願いながら、命を賭けた療養生活を送り、多くの医師や看護師らが、患者を助けて一人でも多くの患者を治そうという努力を日夜展開していた。

清瀬の結核関係施設の中で、結核研究所は本来結核対策や治療に関連する研究活動を行う機関であり、結核症の病理学的な研究や細菌学的な研究を行い、その附属療養所、国立東京療養所（傷痍軍人東京療養所から戦後転換）、国立清瀬病院（都立清瀬病院から転換）などの諸施設では、当時目覚ましい進歩をとげつつあった結核医療について、先端的な研究活動を展開しており、清瀬の施設が日本全体の結核治療の研究についてリーダーシップをとっていたともいえる。全国の国立結核療養所を縦断的に組織した國療化研の事務局が東京療養所に置かれていたことも、清瀬の重要性を示す一端である。

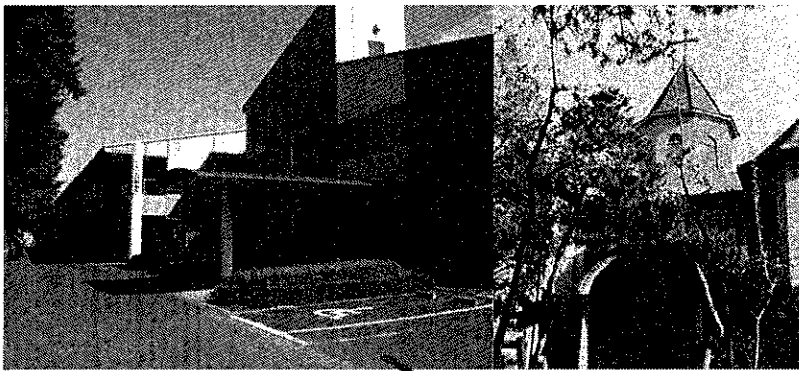
結核研究所では研究活動と並行して、結核対策に従事する医師などの研修にも創立以来熱心に従事し、戦後も早くから研修活動を再開した。多くの医師、保健師、診療放射線技師が清瀬で数か月宿舎に泊まりながら研修を受け、修了後は全国の結核対策の第一線で活躍してくれた。ここで研修を受けた方々には、「清瀬」は忘れられない名前である。

結核研究所では、昭和38年以降英語で行う結核対策に関する国際研修コースを開始した。コースはその後ずっと続けられ、現在まで97か国から2,100名の研修生が研修を修了し、世界各地で結核対策に従事している。また、研修生の他に、世界の著名な結核専門家も講師として講義をし、その多くの方は結核研究所の宿舎に泊まっている。

こうして今や、「清瀬」は結核患者にとって親しみのある地名であるだけでなく、日本の結核対策関係者、そして世界の結核対策関係者にとっても、結核の代名詞ともいえる地名になっている。

連載第1回に「清瀬」を選んだのは、こうした理由による。

清瀬市周辺地図



ベトレヘムの園病院

慈生会ベトレヘムの園



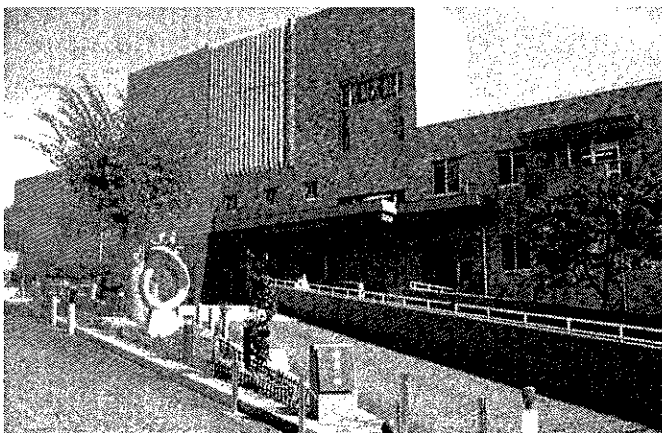
信愛病院 (現在)



救世軍清瀬病院 (現在)



救世軍清心療養園 (昭和20年代頃) ※現救世軍清瀬病院



清瀬上宮病院 (現在) ※旧上宮教会清瀬療園



結核患者のための歩行訓練路(現在) 訓練路

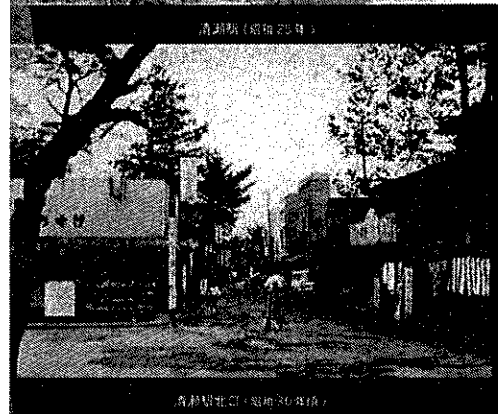
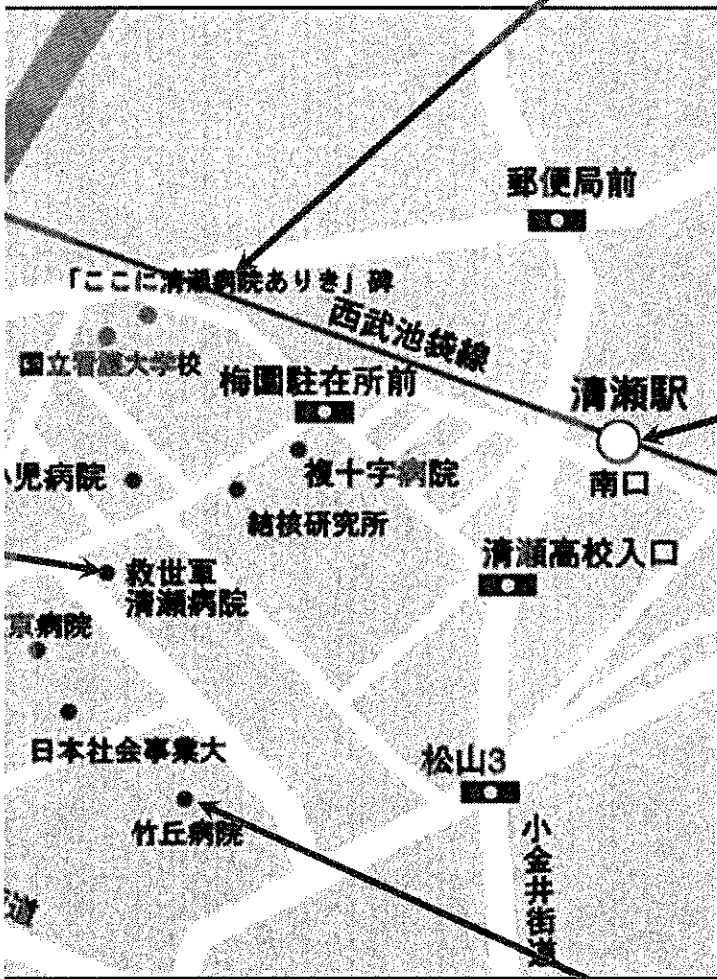


信愛病院（昭和20年代頃）



「ここに清瀬病院ありき」碑（現在）

清瀬病院（昭和20年代頃）



清瀬駅（昭和25年、昭和30年頃）



に設けられたベンチ（現在）



竹丘病院（現在）

清瀬保養園（昭和20年代頃）※現竹丘病院